

書評 新刊 紹介



まるいはマリモ 阿寒マリモ自然誌研究会 文、
稗田一俊ほか写真 月刊たくさんのふしぎ 1996
年 5月号 (第 134号) 福音館書店 680円

タンチョウヅルの飛来地として有名な北海道阿寒町といえはマリモの産地としても全国的に有名である。本書「まるいはマリモ」は福音館書店から発行されている小学生向けの月刊誌「たくさんのふしぎ」の1シリーズである。この本によるとマリモの仲間は河口湖・山中湖・西湖などにも存在するが、丸いマリモは世界中で阿寒湖にのみ存在するという。本書の内容は我々がマリモに対して抱く疑問、例えば、マリモとはどんな生き物なのか?どこからやってきたのか?どんな環境に住んでいるのか?みやげ物屋の人工マリモはどうやってつくるのか?などに丁寧に答えてくれる。親子で対話をしながら読み進むと楽しいだろう。

本書の執筆者は筑波大学下田臨海実験センター長の横浜康継氏、阿寒町教育委員会学芸委員の若菜勇氏であり、写真撮影はフリーカメラマンの稗田一俊氏ほか

による。横浜康継氏は伊豆下田で海藻の光合成を独自に開発した実験装置により30年以上研究されてこられた。若菜勇氏はシオグサの生活史の研究に造詣が深くマリモ保護のための研究をされている。稗田一俊氏は長年川の魚などを撮ってこれた方で、阿寒湖の水の透明な季節と水の揺れない時間を巧みに選んで迫力のある写真を撮っておられる。本書の特徴はマリモの外見だけを撮った一般的な写真集にしていないところにあり、マリモの体を分解して示し体の内部が光合成により緑色を保っていることを科学的な目で見つめている。この本を読むことによってマリモの生命力の強さをも認識させられるとともに、本書をつくられた執筆者・写真家・阿寒町教育委員会の方々のマリモに対する深い愛情がしのばれる。

しかし、悲しいことに現在このマリモは棲息数が減っているという。阿寒湖内の4ヶ所の棲息地のうちの半分でマリモが絶滅してしまった。観光船の遊覧・生活排水の流入・水力発電や林業開発の影響などによるという。これに対して我々はどうのように対処すべきか?この問題に対する解答は本書には示されており、読者1人1人が考えなければならないことなのである。

内田英伸 (筑波大学生物科学系)

Manual de Metodos Ficologicos K. Alveal, M.E. Ferrario,
E. C. Oliveira and E. Sar (Eds.) Universidad de
Concepcion, Concepcion, Chile. 定価 5,600円 (送料別), 863頁. 1995.

本書は、チリ、ブラジル、アルゼンチンの大学のスタッフが中心となってまとめられたスペイン語による「藻類実験法」である。スポンサーとして南米にある寒天業界がかかわっているために、非常に安い価格になっている。

対象となっている分野は、微細藻類から海藻まで幅広い。微細藻類は21項に分けられており、採集法から電子顕微鏡による観察、それぞれのグループの分類・同定法が記述されている。それぞれの項目は実践的な記述で引用文献が多いのが特徴である。

大型藻類は26項目になっており、採集法・種の見分け方から始まり、種々の培養法、組織培養法が紹介されている。海藻の交雑実験法やDNA抽出法にも触れている。海苔、オゴノリ類など有用海藻は養殖法が詳しい。筆者らは緑藻の養殖法を記述した。寒天など

の多糖類の構造決定法などにもふれている。汚染・重金属関係の研究法の記述もある。この本の特徴は、実験法と総説が一緒になっていてあまり形式にとらわれず、執筆者にまかされて書かれていることである。執筆者の多くは、南米の研究者であるので、引用文献などを追うことによって、研究の動向を知る手がかりともなる。

国際化の時代でスペイン語圏からの来訪者も多くなるので、手元にあっても良い本である。購入方法は、チリのProf. Alvealに注文すれば、送金用のフォームが郵送してきてVICAカードなどで送金できる。筆者らは購入の便宜をはかることができる。

購入先: Prof. Krisler Alveal: Universidad de Concepcion,
Department de Oceanografia, Casila 2407-10, Concepcion,
Chili. Fax: + 56-41-225400
E-mail: KALVEAL@BUHO,DPI.UDEC.CL

大野正夫, Jacqueline Rebello
(高知大学海洋生物教育研究センター)